写真によせて

メコノプシス・ベラ
Meconopsis bella

札幌市　**梅沢　俊**

今年もまた“青いケシ”シリーズ。

昨年の夏はブータンで青いケシを探した。目的はシェリフィーという珍しいピンクの花だ。これはブータンでは２ヵ所で記録がある。ルナナ地方と最近見つかったミンチュガンという所だ。この花を見たかったら10日ほどのトレッキングでミンチュガンを往復すればいいのだが、４年前に「ガンカプンズムにもあるようです！誰も確認していませんが…」との情報をブータンのスタッフからもらったのだ。第３の産地！それでブータンの最高峰ガンカプンズム峰のBCを目指したのである。

荒涼とした現地を見て“ここにはない”ことを直感した。植生が単調で、見た青いケシはM. ホリデユラとM. シンプリキフォリアだけだった。落胆は最後にと転進を図った。そこはガイドブックに？マークのあるルート、あまり人の通らないルートだ。

そこに向かう途中で出会ったのがイギリスの植物探索グループ。当然情報交換したのだが、彼らは私どもの行こうとしているルートを通り、シェリフィーを見たというのだ。あまりにも出来過ぎの話だよね！

４日後、当然そこでシェリフィーと対面できたのだが、今回その写真は載せない。なぜなら憧れの株の花期はほぼ終わり、最後の１輪を残すだけだったのである。そこで身代わりとなったのが途中の岩場で見て見て！とばかりに咲いていたM. ベラなのである。この青いケシは岩場に生育する比較的珍しい種で、開花後果実をつけた花柄が反り返り、背後の岩に種子を植え付けるという変わった生態を持つ。日本でこのような戦略を持つ植物に、タヌキモ科のムシトリスミレに似たコウシンソウが知られている。

キンポウゲ科の咲くところ
キンポウゲ科いろいろ
アネモネ属６変化

札幌市　**本多　丘人**

シラネアオイ

日本（北日本）固有の植物とのこと。大千軒岳やオロフレ山の大群落は花好きには有名です。道内では低地から亜高山までどこにでもあるのに、北海道レッドデータブック（2000）では、絶滅危急種（Vu）とされています。庭に植えるために山採りする人が多いと予想されるからでしょう。誰が見ても美形だということですね。雌しべが２つあるので果実の形が独特です。

2012.6.10　蘭越町（ニセコ山系）

エゾノリュウキンカ

雪どけから間もないころ、湿地や小川沿いで鮮黄色の花を開きます。かなり目立つので、おそらく見たことがない人はいないはずです。道央の低地では４月下旬、遅くまで雪が残る高山の雪渓付近では８月上旬でも咲いています。よく見ると、萼片の形や数には結構な変異が見られます。山菜（ヤチブキ）としてもおなじみ。

2012.7.28　東川町（裾合平）

エゾキンポウゲ

春、国道275号線を走ると目につく黄色

の花はエゾノリュウキンカ、キバナノアマナ、そしてこのエゾキンポウゲです。とくに幌加内町の道の駅からさらに北に進めば左側に驚愕の大群落が広がります。もちろん長靴をお忘れなく。

2015.5.6　幌加内町

2 色のキクザキイチゲ

道内では白色以外のキクザキイチゲは少ないので、春の連休あたり、半年ぶりの花めぐりで色つきのキクザキイチゲを目にすると嬉しくなるものです。札幌で簡単・確実に見ることができるのは手稲の星置緑地付近です。私の実感では南に行くほど色つきが珍しくなくなるような気がします。この日の地球岬では、たまたま２つ並んで咲いていました。

2010.5.5　室蘭市

八重でピンクのキクザキイチゲ

通常の２倍ぐらいの花被片の数、しかもピンクです。このような一段と美しいキクザキイチゲに遭遇するとじっくり拝見、じっくり撮影となりますね、やっぱり。いろんなものを見るためにはとにかくあちこち行かないと。ほとんど偶然の世界なのです。

2006.5.4　長万部町

濃色のキクザキイチゲ

これほどの濃紫色はめったにお目にかかれないはずです。といいますのは、私が見たのはこれっきりでしたから。花の色は、その色素を作る酵素反応のバリエーションによるものらしいのですが、何かの間違いでは、と思えるような色ではありますね。

2006.4.29　室蘭市

ギンサカズキイチゲ

遊歩道の脇に、こんなニリンソウが咲き始めていました。私は一時期、様々なミドリニリンソウを撮り集めていたこともあるのですが、ファイトプラズマとかいう植物病原細菌による変異（病気）ということを知って少し悲しくなりました。これもそうかもしれませんね。それにしても「ギンサカズキ」とは異様な名前。調べたら、牧野富太郎の命名（1914 年）のようです（J. Jpn. Bot. 84: 283–293, 2009.）。

2016.5.9　新冠町

ハナガサイチゲ

2015 年 4 月 26 日、旭川市の本会会員・舟橋健氏に案内していただいたのが初めてでした。それまではこの名前すら知りませんでした。翌 2016 年に出かけた時にはたくさん咲いていました。ところが、です。2017 年 5 月 3 日に再訪したところ、「お願い　ハナガサイチゲを返してください　野の花を愛する人たち」の看板があり、現物はゼロ。まったくひどいもんです。プロかプロに近い人によるドロボウです。このまま消失するのか、あるいは種子から再生するものなのか・・・。

2016.5.10　比布町

ピップイチゲ

キクザキイチゲの品種のひとつ。ウラホロイチゲ（アムールイチゲ）は「種」として認められているのに対して、こちらはキクザキイチゲの下位分類の「品種」扱い。格が違います。けれども初めてとなると、それなりの感慨があるものです。おおかたの人にとってはキクザキイチゲとの区別なんてどうでもいいのでしょうけど。

2016.5.10　比布町

ウラホロイチゲ

釧路市　　**佐藤　照雄**

この写真は 2016 年 4 月 23 日、釧路市

音別町霧里で撮影した。ここはヒナスミレとともに釧路では最も早く咲き出すことから、出会えるのを楽しみに毎年訪れている。道端の林縁で早春の林床を白く染める群落は、まぶしいほど清々しく魅力的ですばらしい。開花時期がほぼ同じのアズマイチゲとは、萼片数の違いなどからすぐに区別はつくが混生している所も見受けられることから、交雑種は出ないものかと毎年興味深く観察している。

フタマタイチゲ

釧路地方では６月に入ると、旧音別町のキナシベツや白糠町のパシクルから恋問の海岸線や釧路市の春採湖、浜中町琵琶瀬の湿地などのほか、釧路湿原の塘路など主に低地に見られるが、分布地と個体数は決して多くはない。いつもは花弁状の萼片が５個のものばかりが目についたが、琵琶瀬では初めて４個の花に出会った。

白い花びらの裏側は美しい紅紫色を帯び、撮影のときは決まって下からのぞき込むように見るのが楽しみでもある。

2016.6.5　浜中町琵琶瀬

エンコウソウ（白花）

旭川市　　**舟橋　健**

エンコウソウが咲く、小さな沼地を見つけたのは、春早い 2015 年４月９日で、まだ２輪しか咲いていなかった。その後どうなっているのかと 20 日程経って再度行くと、沢山のエンコウソウが咲いていた。その中に１輪、萼片が白色のエンコウソウがあり、その時は、何らかの傷みか病気が付いて枯れかかっているのだろうと思っていたが、次の年に同じ場所で、萼片が白色の花が３輪同じ株から咲いていた。同じ場所で２年続けて白い花が咲くのであれば、初めて見る白花のエンコウソウに間違いないと思い、感動しつつカメラのシャッターを押した。沼の中程にあるため残念ながら接写では撮ることが出来なかった。知人に尋ねると、黄色の花の白色は珍しいという事だった。この花には名前が付いているのだろうか。

2016.4.28　旭川市東旭川町

樹林帯のミヤマオダマキ

江別市　**大沼　弘樹**

今回ご紹介するのは、手稲山で見かけた見事なミヤマオダマキです。ミヤマオダマキといえば、高山で身を縮めるように咲いている姿がお馴染みですが、時には手稲山のように樹林に覆われた岩壁で、花束のような伸び伸びとした姿で咲き誇る姿も見られます。

道内各地に点々と分布するミヤマオダマキですが、花色や全体の趣は、自生地によって随分とバリエーションがあります。山で出会ったミヤマオダマキたちを思い思いに撮影して、あとから見比べてみても楽しい発見があるかもしれません。

ちなみに、山野草を生産販売している全国のナーセリーの web サイトを見ていると、北海道の「徳舜瞥山」や、東北地方の「八甲田山」、「早池峰山」といった、それぞれに姿形が違う系統が栽培化されているようです。これらは人の手によって代々タネから育てられてきたものですが、故郷の山を離れてもなお、悠久の月日をかけて適応した姿は、しっかりと受け継がれている様子が見て取れます。興味がある方は、インターネットや園芸店などで、見比べてみては

いかがでしょうか。

函館市　**酒井　　信**

センニンソウ属から

花が終わった後も、なかなか風情があって楽しませてくれる（ボタンヅルの花後は未見）。

・クサボタン　2017.9.5　函館山
・センニンソウ　2017.9.5　函館山
・ボタンヅル

センニンソウに似た花、既に4枚ある萼片が脱落している。ときどき、花を見に訪れるが、2008年に見て以来なかなか開花に出会えない。今年は見逃すまいと頻繁に通ったが、開花の兆候すら見られなかった。道内にあることになっていないと思われ、貴重な存在。不十分な画像ながらあえて取り上げた。

2008.8.31　七飯町

キクバオウレン

これも花が終わって果実ができ、特に赤みを帯びてくると、光沢がありひときわ目を引く。

2017.3.27　七飯町

ミドリニリンソウ

ミドリニリンソウはそう珍しくはないが花がさまざまで楽しませてくれる。今回の写真は、ミドリニリンソウの小群落の中で見た2, 3, 4輪咲きのもの。

2012.5.10　函館市鉄山町

江別市　**中川　博之**

ナガバカラマツ

初めて見たのは2010年の7月終わり。日高地方の林道沿いの暗い岩場だった。当然花は終わっていて、どこにでもある種ではないからそんなに多く見られないんだと思い込んでいた。2017年6月上旬、久しぶりに同じ林道を再訪。すると岩場にたくさん咲いているではないか！ようやく花を見られた嬉しさと、ざる目だった自分にややがっくり。

オオヤマオダマキ

この花を見るといつもオオヤマオダマキとしていたけれど、日本の野生植物（平凡社）ではヤマオダマキの変種がオオヤマオダマキで、両方北海道にあることになっていた。知らなかった（汗！）。花弁の距が強く内曲するものをオオヤマオダマキとしているので写真もオオヤマオダマキだと思われる。沢沿いの林内でたまに見かけるが、どこにでもある感じでもないし、うつむき加減に咲かせるワインレッドの花色にいつもはっとして心惹かれる。

イトキンポウゲ（裏表紙）

斜里町　**内田　暁友**

知床では1984年に最初に発見され、翌年、佐藤謙さんらによって報告されました。私が最初に知床で見たのは2006年の9月、風が強く暗い日でした。花や果実はないものの、濡れた岩上を這いながらところどころで根をだしつつ細い葉をつける繊細な姿はとても印象的でした。帰ってから調べてイトキンポウゲだと判り、再発見を喜びました。しかし花を見ることができたのはその4年後、2010年8月の晴れた日でした。勢いよくのびるコケに埋もれるようにして咲く花は小さくてもやはりキンポウゲ属で、キラキラと輝いていました。

2010.8.6　羅臼町